

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち1

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点
1	(1)	(ア)	65		各 5 × 3
		(イ)	40		
		(ウ)	医療		
	(2)	①	5 段階		各 4 × 2
		②	2 段階		
(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん ・関節リウマチ ・筋萎縮性側索硬化症 ・後縦靭帯骨化症 ・骨折を伴う骨粗鬆症 ・初老期における認知症 ・進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病 ・脊髄小脳変性症 ・脊柱管狭窄症 ・早老症 ・多系統萎縮症 ・糖尿病性神経障害、糖尿病性腎症及び糖尿病性網膜症 ・脳血管疾患 ・閉塞性動脈硬化症 ・慢性閉塞性肺疾患 ・両側の膝関節又は股関節に著しい変形を伴う変形性関節症 		3つ書かれていればよい。	各 5 × 3	
2	12.5 %		4		
2	1	両手で頸部をわしづかみにする動作。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
	2	全身に酸素が行き渡らなくなるために、顔色が青白くなったり、口唇や爪の色が青ざめている状態。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・異物が見えれば指を口に入れて異物を取り出す。(指拭法) ・頭を低くして肩甲骨の間を平手で強く数回たたく。(背部叩打法) ・背後から抱きかかえ、片手の拳をみぞおちに当て、もう片方の手で拳を握り手前前方へ一気に持ち上げる。(ハイムリック法) 		1つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・前傾姿勢。 ・顎を引いた姿勢。 		1つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	5

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち2

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点		
3	1	(ア)	家族やコミュニティとほとんど接触がない状態。	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。	各 5 × 3	29	
		(イ)	運動器の障害により移動機能の低下した状態。				
		(ウ)	高齢者の身体機能や認知機能が低下して虚弱となった状態。				
	2	A	認知症	脳卒中 もよい。	各 4 × 2		
		B	脳血管疾患				
	3	音域	低い音域	内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。 音域と理由がともに合っているものだけを正答とする。	6		
理由		加齢とともに聴力が低下し、高い音が聞こえにくくなるため。					
4	1	(ア)	食べ物	食物 食事 もよい。	各 3 × 2	31	
		(イ)	代謝水	燃焼水 もよい。			
	2	(1)	④、⑤、⑥、⑧		全部合っているものだけを正答とする。		5
		(2)	<ul style="list-style-type: none"> ・体内に占める水分量が減少しているため。 ・腎臓の機能が低下しており、水分の再吸収力が低くなっているため。 ・中枢の感覚の低下から、喉への渇きを感じにくく、水分補給がうまくいかないため。 		2つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		各 4 × 2
		(3)	<ul style="list-style-type: none"> ・唇や舌などの乾燥状態や尿量を確認し、1日の必要水分を知り、その量を摂取するように促す。 ・水分の多い料理やおやつ、水分補給食品などを活用するように勧める。 ・毎食事のお茶以外にも午前・午後のお茶の時間や入浴後、就寝前及び起床時に水分補給を行うように促す。 ・トイレを気にして水分を控えようとする高齢者には、排泄環境や介助体制を整え、安心して水分がとれるようにする。 ・高齢者の好みの飲料を、口渇時にすぐ飲めるような場所に置いておく。 ・少量多頻度の飲水を心がけるように促す。 ・高齢者自身や家族に脱水について説明し、十分に理解してもらう。 		3つ書かれていればよい。 内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		各 4 × 3
			福祉の各分野の学習活動を通して、福祉の各事象に関する知識や関係する個別の技術について、それらを相互に関連付けるとともに、日常生活と福祉との結びつきや変化する状況や課題に応じて主体的に活用することができる知識と技術、将来の職業を見通して専門的な学習を続けることにつながる知識と技術などを身に付けるようにすること。		内容を正しく捉えていれば、表現は異なってもよい。		12

高等学校福祉科採点基準

3枚のうち3

【注意】問題によっては、部分点を可とする。

問題番号		正 答 [例]		採 点 上 の 注 意	配 点	
6	1	(ア)	家庭		各 3 × 6	
		(イ)	社会			
		(ウ)	自立			
		(エ)	日中			
		(オ)	夜間			
		(カ)	精神			
	2	(1)	<ul style="list-style-type: none"> ・多脚杖 ・ロフトランドクラッチ ・松葉杖 		2つ書かれていればよい。 多脚杖は、四脚杖、多点杖、四点杖 もよい。 ロフトランドクラッチは、ロフトランド杖 もよい。	各 3 × 2
			(2) 痛みや苦痛、希望や要望などの訴えや感覚的な情報。		問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	
		(3)	声かけの例	車いすを利用したいのですね。杖で歩くことはしんどいですよね。	声かけと理由がともに合っているものだけを正答とする。 問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	各 5 × 2
			その理由	Bさんの言ったことを否定も肯定もせず、評価を加えずそのまま受け入れ、Bさんの気持ちをまずは受容することで、T字杖で施設内を安全に歩行する意欲を向上させるため。		
	声かけの例	最近のBさんは少しずつ杖で歩ける距離がのびているので、行けるところまで杖で歩き、難しくなったら車いすで行きましょう。				
その理由	Bさんのもっている力に着目し、少しでも杖で歩いてもらえるようにするため。					
7	2次	設定する学習活動	生徒を6グループに振り分け、介護実習について、新たな発見を共有させ、議論させる。既習の知識を踏まえ、介護実習で体験した具体的な内容を、グループごとに「個人情報保護」「様々な社会福祉施設の役割」「施設利用者の理解」「自己の成果と課題」について共有しまとめさせる。	設定する学習活動と理由が対応しているものだけを正答とする。 問いを正しく捉えていれば、内容は異なっていてよい。	各 1 4 × 2	
		理由	個人の学びをグループ内で共有することで、他者の考えを知り、新たな気づきをさせるとともに、福祉の見方・考え方を働かせ、既習の介護の知識や技術と実習での実践を結びつけて深化・統合化を図ることができるため。			
	3次	設定する学習活動	実習報告会を行い、グループごとに発表させる。他の生徒には、自分自身の体験と照らし合わせながら聞かせ、考察させる。発表後は質疑応答や全体討議を行わせる。			
		理由	実習報告会を行うことで、他者の実習体験から学ぶだけでなく、自分の学びと他者の学びを比較しながらより深く考察させ、深められた知識や技術を、以後の介護実習にも活用できるようにするため。また、質疑応答や発表後の全体討議を行うことで、知識と実践の深化・統合化を図ることができるため。			